

# E—8 多雪地帯における農家住宅内温・湿度の実態調査(第3報)

—冬季—

新潟大教育 大島 愛子

1. 第2報で夏季における調査結果を報告したが、引続き冬季も調査を行ったので、夏季と比較しつつ、その実態を示し、冬季における農家住宅内温・湿度の特徴を明らかにしようとしたものである。

2. 調査地および対象家屋は、夏季の場合と同一で、新潟県南魚沼郡六日町大杉地区とし、対象家屋は茅葺(土座)、茅葺(床張り)、セメント瓦葺(新築家屋)の3戸である。

測定方法は床上 150 cm の壁際に自記温・湿度記録計を設置し、経時変化をみた。また携帯用電気湿度計(感湿要素  $ZnCl_2$ )とサーミスター温度計を用い、屋根の裏面から階下床まで、垂直に温・湿度分布を定時計測した。別に、戸外(住宅より約 40 m の距離の空地)の百葉箱に、自記温・湿度記録計を設置し、室内との関係をみた。定時計測の期日は 11 月から 3 月まで各月 1 回宛とし、午前 11 時および午後 2 時に行った。

3. 以上の結果を次の項目に分けて述べる。

(1) 戸外温・湿度と住宅内温・湿度の経時変化について  
a) 快晴の場合、b) 雨天の場合、c) 雪降りの場合、d) 雨後晴の場合、e) 雪後晴の場合

(2) 住宅内温・湿度の垂直分布について

a) 温度・湿度・絶対湿度の垂直勾配

b) 屋根裏空間と階下空間との比較

(3) 茅葺住宅とセメント瓦葺住宅の快適性について